

みんなで築こう 人権の世紀

考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心



白川小学校 2年 さわだ けんすけ 兼佑 さん



亀山西小学校 2年 たなか ゆうたろう 祐太朗 さん



神辺小学校 3年 さの なつ 夏紬さん



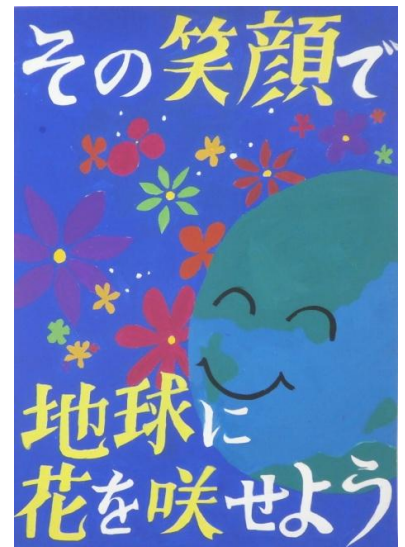
亀山中学校 2年 くぼた ゆうき 裕貴 さん



亀山南小学校 4年 いわま こはる 岩間 心暖 さん



川崎小学校 4年 やはし きらら 希星空 さん



関中学校 1年 かわきた きらら 川北 紗良 さん

ヒューマンフェスタin亀山

平成29年12月9日(土)、亀山市立井田川小学校体育館において「第13回ヒューマンフェスタ in 亀山」を開催しました。約400名の方にご来場いただき、会場はほぼ満席となりました。

当日は、徳風高校の生徒による司会のもと午前11時に開会し、主催者あいさつ等の後、市内3中学校の生徒による人権作文発表と、亀山高校・徳風高校の生徒や社会人による人権スピーチがありました。

人権作文発表・人権スピーチでは、発表者自身の障がいのことや、自身のルーツなどが語られ、来場者らは熱心に耳を傾けていました。

昼休憩には、亀山みそ焼きうどんの販売、亀山市人権教育推進協議会による「人権カンバッチ&しおり」づくり体験、徳風高校によるネイルアート、市内小中学生の人権習字・ポスター展示、各種活動団体による活動報告などのブース活動・展示が行われ、各ブースとも多くの人で賑わいました。

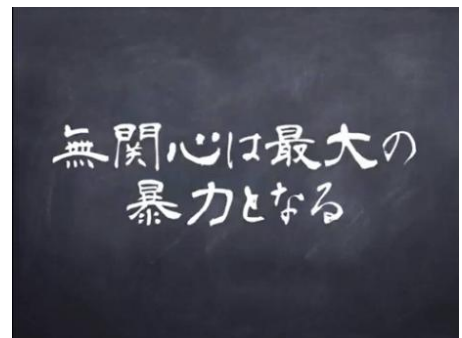
午後は、自閉症の息子2人をもつ父と長男のノンジャンル音楽ユニット『RAMO』さんによるコンサート『知ろうとするより感じてほしい』を行いました。

とても心にしみるアコースティックギターのメロディと歌声を披露していただきました。演奏と演奏の間には、『子どもの手首をつかんで引きずるように歩いていたのに、手と手をつないで歩けるようになった時は、体が震えるほど感激して、それも2人の子どもがいたからこそなんです』などの体験談が語られました。



来場者アンケートの感想の紹介

- ◆はじめてRAMOさんのライブを見ました。とても思いが伝わりました。ありがとうございました。
- ◆RAMOさんのライブで、自閉症の子どもを持つ親御さんの気持ちを本当代弁してもらっていたので、子どもの昔の様子などを思い出して、涙が出てきました。
- ◆昨年、、、毎年、午後も午後も、とても心にのこります。参加を続けたいです。



RAMOさんの曲「宝くじ号」の歌詞の一節

「ヒューマンフェスタ in 亀山」は、毎年12月の人権週間に合わせて開催しています。市民の皆さんの人権感覚を磨いていただくため、様々な参画団体によるブース展示や人権に関する講演会などを実施しています。皆さんの参加をお待ちしています。

性の多様性について考えてみましょう

「性」については、次の4つの要素で捉えることができます。

①からだの性

生物学的な性別（外性器、性染色体など）

※生まれつきの身体の状態が一般的な女性・男性の身体とは一部異なっている性分化疾患の方などもあります。

②こころの性（性自認）

自分の性別をどう思うか

※こころの性とからだの性が一致せず、自分自身の身体に違和感を持っている人や、自分は男性でも女性でもないと感じている人もいます。

③恋愛対象の性（性的指向）

恋愛対象がどの性別に向くか

※男女のどちらか一方の性を好きになる人だけでなく、男女とも恋愛対象の人や、誰に対しても恋愛感情を抱かない人もいます。

④表現する性

服装、髪型、しぐさなど外見の表現

LGBTなどの性的マイノリティのことを知っていますか？

LGBTとは…

L…Lesbian（レズビアン＝女性同性愛者）

G…Gay（ゲイ＝男性同性愛者）

B…Bisexual（バイセクシュアル＝両性愛者）

T…Transgender（トランスジェンダー

＝身体の性に違和感を持つ人、生まれたときの

性別とは違う性別で生きる人・生きたいと望む人）

これら4つの頭文字からなる性的マイノリティを指す言葉です。

この他にも多様なセクシュアリティが存在します。

民間の調査では、LGBTなどの性的マイノリティの方が人口の7.6% 約13人に1人の割合にいるというデータもあります。

LGBTなどの性的マイノリティについては、正しい知識がなく、また、正しく理解されていないことで、何気ない言動により、身近に傷ついている人がいるかもしれません。誰もがありのままの自分を受け容れられ、自分らしく生きることができる社会をつくりましょう。

2017年度「人権」に関する絵画・ポスター募集への応募ありがとうございました。



今年度も市内の全小中学校の児童・生徒の皆さんからたくさんの応募をいただきました。

作品は、12月の「第13回ヒューマンフェスタ in 亀山」の会場（井田川小学校体育館）と、1月に「みらい」で展示しました。

子どもたちの人権メッセージの詰まった作品を多くの方に見ていただくことができ、大変有意義なものとなりました。

次回もたくさんの応募をお待ちしています。

ちょっと考えてみよう！

ちがいのちがい

これらのことは、「あっても良いちがい」でしょうか？

それとも「あってはいけない(無い方が良い)ちがい」でしょうか？

あるいは「どちらとも言えない」でしょうか？

気軽に考えてみてください。ぜひ、ご家族、お友達とも話し合ってみてください。

- 1 日本に住んでいる10歳のAさんは毎日学校に行っているが、発展途上国に住んでいる10歳のBさんは毎日路上でガムを売っている。
- 2 ランドセルは男子が黒色で、女子は赤色が多い。
- 3 Cさんはどこにでも旅行に行けるが、車いすに乗っているDさんは一人で電車に乗ることができない。
- 4 75歳の自治会長Aさんの話はみんな聞かすが、同じ歳としで認知症のBさんの話は誰も聞こうともしない。
- 5 日本では、食事の時に箸はしを使うが、インドでは指を使う。
- 6 ある不動産屋は、家を建てるための土地を探しているお客さんに、C地区の購入は勧めているが、D地区には近くに同和地区があるからという理由で、購入を勧めていない。
- 7 災害時の避難所で、多くの人は音声アナウンスにより食べ物の配給時間を知ることができたが、聴覚障害者のEさんは知ることができなかった。
- 8 中学生のAさんの毎月のお小遣いは5,000円だが、同級生のBさんの毎月のお小遣いは1,000円である。
- 9 Cさんの家では必ず父親が先に風呂に入るが、Dさんの家では決まっていない。
- 10 日本でアパートを借りる時、日本人のAさんは簡単に借りられるが、外国人のBさんはなかなか借りることができない。
- 11 HIV感染者のCさんは会社を退職させられたが、癌がんの手術をしたDさんは手術後会社に復帰した。

これらのちがいが、差別心や人権が尊重されていないこと等によるものなのか、認められるべき多様性や個性等によるものなのか、それぞれの目線で考え、話し合ってもらうための資料です。

あらゆる差別のない明るい社会を築いていくためには、私たち一人ひとりが毎日の暮らしの中で人権感覚を磨いていく必要があります。ご意見等ございましたら、お気軽にご連絡ください。

亀山市 生活文化部 文化スポーツ課 文化共生G
〒519-1192 亀山市関町木崎 919-1
Tel 0595-96-1223 FAX 0595-96-2414
E-mail:bunkakyosei@city.kameyama.mie.jp

——— 亀山市人権施策基本方針の基本理念 ———

みがこう、人権感覚 広げよう、人権の視点
めざそう、一人ひとりの人権が尊重されるまち